



うめだこ 梅田湖ロウバイパーク

梅田湖畔に一足早い春の予感を告げる 地元有志で守り育てた黄花の楽園

底冷えの「大寒」が迫る頃、その寒さに抗うかのように、地元紙などで「開花」の見出しが躍る。その舞台こそ、静かな梅田湖のほとりに、地元市民が手づくりで整備した「梅田湖ロウバイパーク」だ。

ロウバイパークの歴史は平成18年、地元の有志で結成した「台緑地の自然環境を考える会」（森下清秀会長）が200本のロウバイを植樹したことから始まった。行政との調整を経て場所を得たものの、植樹前は一帯に篠などが生い茂る、手つかずの地だった。今でこそ「梅田台緑地公園」が隣接し開発されたスポットのイメージがあるが、同公園を桐生市が整備し開園したのは令和元年のこと。ロウバイパークはそれより10年以上も前から、市民の手で地道に作り上げられてきた。

植樹から6年後の平成24年には立派に成長し花を蓄えたロウバイを披露すべく、会の主催により「ロウバイ祭り」がスタート。当初は200人程度の来場だったが、現在では2日間の会期中に約3000人が訪れ

る人気行事となった。SNSを通して若い世代にも注目が集まり、「湖を背にしたロケーションの良さを求めて遠方からも多くの来訪がある」と森下会長は話す。冬季の梅田は観光誘客で苦戦していたが、ロウバイパークの認知度と比例して周囲の飲食店にも真冬の閑散期に多くの人々が訪れるなど、地域の活性化にも大きく寄与する。

ロウバイは現在350本を数え、他にもミツマタや彼岸花など様々な花が四季を通して楽しめる。令和6年の「ロウバイ祭り」は2月3・4日に開催。市民有志で育て上げた「梅田湖ロウバイパーク」が、梅田地域と様々な人々を結び、活気を呼ぶ大きなピースを担う。



【梅田湖ロウバイパーク】
●住所／桐生市梅田町5丁目地内
（梅田台緑地公園隣接）
●問合せ／0277-32-1483
（梅田公民館、平日8：30～17：15）